

## 「創立20周年おめでとうございます」

8月末に横浜で行われる第7回アフリカ開発会議（TICAD7）に向けて外務省が招聘したアフリカ6カ国の記者たちが本校を訪れた時、休み時間に外で遊んでいる子どもたちがアフリカの記者たちに近付いて「ハロー」と声をかけハイタッチしている姿を見て、「国際人をめざす会」の講師の方々から学んだことの積み重ねが実っていることを実感しました。

本校では、3年前から横浜の開かれた地域性や学区の歴史的背景などから「国際社会で活躍できる人材の育成をめざして」というビジョンを立ち上げ、教育を進めています。その支えとなったのが「国際人をめざす会」の理念や活動です。講師派遣委員長の阿部様との出会いは偶然でしたが、その出会いから広がる夢は大きく開かれていました。2020年から外国語（英語）を教科として、小学校の5、6年生で教えます。横浜は、外国語活動として1年生から取り組んで20年になりますが、小学校で担任が教える外国語（英語）の指導には不安を抱えています。そこで、外国語への意識や外国人との関わり方などについて段階的に取り組んでいこうと阿部様に依頼して講師を派遣していただきました。はじめに、私たち教師向けの研修として湯澤先生に「国際社会で活躍できる人材」についてお話をしていただきました。日本の抱えている問題やコミュニケーションの方法、好奇心の大切さなどを具体的に教えていただきました。次に、英語を楽しく学ぶ方法として「英語落語」に取り組んでいる関根先生を派遣していただきました。磯子区外国語活動研究会の会員や本校の保護者に対して、英語落語の魅力について教えていただき実演していただきました。英語での小噺に参加者もチャレンジしていました。そして、ここ3年続けて湯澤先生から中学校へ進学する6年生に向けて、メッセージを込めてお話をしていただきました。本校では、三年ほど前からアメリカのサンディエゴの小学校との交流を行っています。昨年サンディエゴへ2週間海外研修をした担任のクラスの子どもたちに対して、湯澤先生から「めざせ、日本人らしい国際人」というテーマで授業をしていただきました。その時に学んだことは、英語が流暢に話せることに越したことはないが、もっと大切なことは、「お互いの違いを認めながらも進んで相手との共通点を探して、共に共感する部分を広げていく積極的な関わり方」が大切であると教えていただきました。まさしく、それはこれからの子どもたちの必要とするコミュニケーション力だと思います。そのことが育ちつつある本校の子どもたちへの次のステップは、具体的に英語をどのように指導していくのかということです。これからも「国際人をめざす会」の皆様からのお力添えをお願いしたいと存じます。

最後になりますが、「国際人をめざす会」の益々のご発展とご活躍、そして将来世界で活躍する子どもたちの情熱を育てていただくことを願っております。

創立20周年、誠におめでとうございます。

横浜市立梅林小学校 校長 黒木英晴